

＊ 大崎市立川渡小学校

2025年3月21日

校内研究 の歩み



令和5年～令和6年度
校内研究のまとめ





校内研究によせて

急激に変化する時代を生き抜く力が求められる現代、教育の現場でもその変化に対応した学びの形が必要不可欠です。本校では、令和の時代にふさわしい日本型学校教育の構築を目指し、「自ら学ぼうとする意欲を持ち、粘り強く課題に取り組み、自信を持って表現する児童の育成～対話的・協働的な学びを通して～」という主題のもと、校内研究を進めてまいりました。今年度までの二年間、この取り組みを通じて、子供たちが主体的かつ協働的に学びに向き合い、自らの力で未来を切り拓く力を養うための実践を積み重ねてきました。

研究を進める中で、本校が重視したのは「ファシリテーション」の技術を活用した教育活動です。ファシリテーションは、単なる知識の伝達ではなく、子供たち一人ひとりが主体的に考え、意見を出し合い、共に課題を解決する力を育むための手法として非常に有効であることが分かりました。授業の中での対話や協働の質を高めることで、子供たちの学びへの意欲や思考力、表現力が大きく向上する姿が見られました。特に、課題に向き合う際の「粘り強さ」や「自信」の育成には、教員が意図的に場をデザインし、児童同士の関わりを促すことが重要であると実感しました。

研究を進める過程では、教員自身も学びを深める機会が数多くありました。本校の外部講師を務めていただいた、ちよんせいこ氏が開発した「ホワイトボードミーティング」の手法を研修し、児童の対話を促進するための問いかけや場づくり、個々の成長を引き出すフィードバックの方法など、教員が共に学び合い、実践を振り返ることで授業改善のサイクルを回ることができました。また、児童の成長だけでなく、教員自身が変化することの大切さを再認識し、学校全体での学び合いの文化が醸成されたことも、大きな成果の一つです。

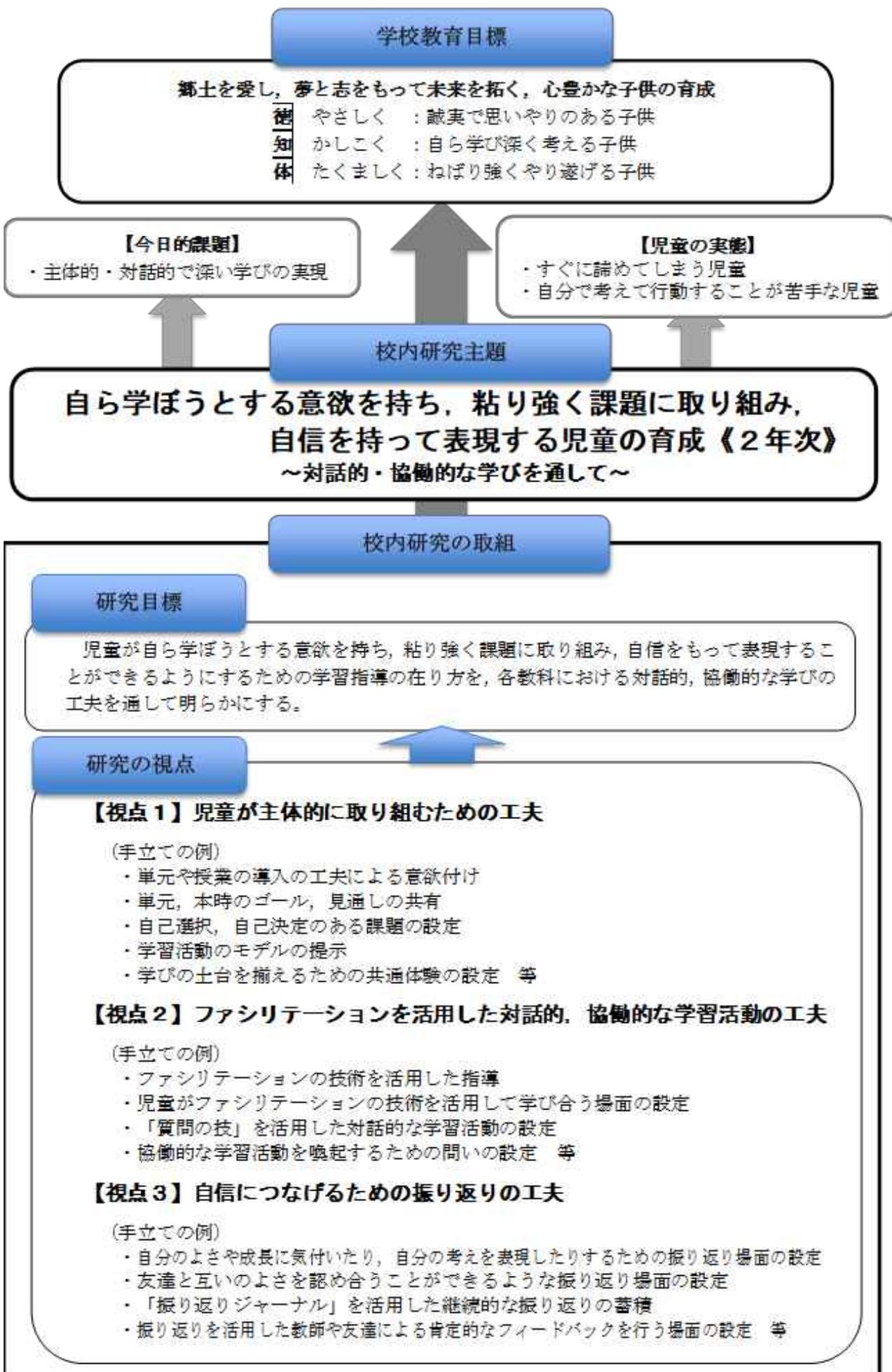
本研究を通して得られた知見や実践の蓄積は、今後の教育活動の大きな礎となることでしょう。急激に変化する社会の中で、子供たちが自らの力で課題を乗り越え、自信を持って未来を生き抜く力を育むために、私たち教職員一同は、引き続き研鑽を積み重ねていく所存です。最後に、この研究にご協力いただいたすべての方々に深く感謝申し上げるとともに、これからも子供たちのより良い学びのために尽力してまいります。

校長 菅原 正秋



目次 はじめに	01
校内研究構想図	02
ファシリテーションとは ホワイトボード・ミーティング®とは	03 ~04
令和5・6年度 全校研究授業・授業研修等の記録	05 ~08
子供たちのことば	09 ~11
先生たちのことば	12 ~13
全校研究授業 指導略案例	14 ~15
事前検討会・事後検討会の進め方	16
おわりに	17

校内研究構想図



📌 ファシリテーション

子供たちの持つ力を引き出し 学びやすさをつくりだす

ファシリテーションとは、集団が持つ知的相互作用を促進する働きであり、人が本来持っている力を引き出し、それらを相互に掛け合わせることで増幅させ、集団の力を最大限に高めていく働きである。

川渡小学校では、子供たちの持つ力を引き出して学びやすさをつくり出し、子供たちの学びを促進する働きとして捉えた。



📌 ファシリテーター



教師も子供も ファシリテーターに

ファシリテーションの技術を活用し、人が協働しながら何かを創り出す場での進行役のことをファシリテーターという。川渡小学校では、教師がファシリテーターとして学びを促進するだけでなく、子供たち自身がファシリテーターとなってグループでの対話を行い、合意形成を目指したり、協働的に活動する中で課題解決を行ったりすることを目指した。

📌 ファシリテーションの技術

6つの技術

ファシリテーションの技術の捉えにはいくつかの捉え方があるが、川渡小学校では以下をファシリテーションの技術として捉えた。

- ① インストラクション（指示・説明）
- ② クエスチョン（質問・問い立て）
- ③ アセスメント（分析・評価・翻訳）
- ④ グラフィック・ソニフィケーション（可視化・可聴化）
- ⑤ フォーメーション（隊形）
- ⑥ プログラムデザイン（設計）



📌 ホワイトボード・ミーティング®



話し合いの手法として

ちよんせいこ氏が2003年に開発し、ビジネス、教育、行政、医療、福祉など幅広い分野で大人から子どもまで世代を越えて取り組まれているホワイトボードを活用し、意見を可視化しながら行う会議のこと。

川渡小学校では、子供たちが対話的・協働的な学習活動を行う際の手立ての一つとして設定しているだけでなく、全校研究授業の事後検討会で教師が話し合いを行う際にもホワイトボード・ミーティング®を活用した。

川渡小学校で
取り組んだ

ファシリテーションとは？
ホワイトボードミーティング®とは？

オープンクエスチョンとあいづち

話し手が自分で話したい内容を選択して話せるように、開かれた質問である「オープンクエスチョン」と「あいづち」を話し合いの際の「質問の技」として活用した。

【質問の技】

オープンクエスチョン

- 1 ~というとは？
- 2 どんな感じ？
- 3 例え？
- 4 もう少し詳しく教えてください
- 5 具体的にどんな感じ？
- 6 どんなイメージ？
- 7 エピソードを教えてください
- 8 何でもいいですよ
- 9 他には？

あいづちの例

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 分かる、分かる
- 4 そうなんだあ
- 5 へえ
- 6 だよなあ
- 7 それで、それで
- 8 そっかあ

📌 振り返りジャーナル



振り返る力 前向きなフィードバック

授業での振り返りはもちろんのこと、毎日その日の出来事を振り返ってノート（B5サイズのノートを半裁したもの）に記録することで、子供たちの書く力や振り返る力、メタ認知する力を育てる。日々の記録を蓄積し、定期的に見直すことで、子供たち自身が自分の成長を実感するとともに、子供たちの振り返りを読んだ教師（場合によっては友達）がフィードバックすることでも、子供たちの自信につなげていくことを目的として取り組んだ。



ファシリテーションとは？
ホワイトボードミーティング®とは？

令和5年度 全校研究授業・授業研修等の記録

令和5年
第1回全校研究授業04.28
第2学年 国語科
「すきなこと、なあと」

「質問の技」を使って「好きなこと」「うれしかったこと」「楽しかったこと」をミニホワイトボードに聞きながら書くことで、相手の話をしっかりと聴くことができた。



授業研修会04.28
示範授業 5・6年
1・2年
3・4年
事後検討会

- ・絵本の読み聞かせ
- ・○×クイズ
- ・あいづち名人
- ・サイン大会
- ・質問の技
- ・インタビュー活動
- ・振り返り 等



第2回全校研究授業06.09
ひまわり学級 自立活動
「自分のよさをみつけ、のぼそう」

「質問の技」を活用し、自分が集中できる活動について紹介し合った。「質問の技」を使って話すことに意欲的に取り組むとともに、話したことを視覚的にも共有することができた。



第3回全校研究授業06.20
第6学年 国語科
「友達の意見を聞いて考えよう」

「質問の技」を活用し、質問を重ねながら他者の意見を聞くことで、具体的に話をすることができ、自分の意見にはなかった新しい視点を見付けることができた。



授業研修会06.20
示範授業 3・4年
5・6年
事後検討会

- ・友達クイズを作ろう！
- ・わたしの構成要素
- ・振り返りジャーナルを書こう 等



第4回全校授業研究07.19
第1学年 生活科
「なつがやってきた」

モデルを示すだけでなく、「質問の技」を活用したやり取りをスクリーンに提示することで、活動内容が可視化され、どのように話すのかを確認しながら自分のおすすめの遊びを話すことができた。



第5回全校授業研究08.25
第5学年 学級活動
「よりよい学級をつくろう」

会社ごとに取り組みたい活動を考える際に、ホワイトボード・ミーティング®の手法を活用することで、互いの考えを共有し、合意形成を図ることができた。



第6回全校授業研究09.22
第4学年 道徳科
「決まりを守る」

ミニホワイトボードに考えを可視化し、対話的に学び合う場を設定することで、互いの考えを共有した。学級全員と話し合うことで様々な考えに触れることができた。



令和5・6年度 全校研究授業・授業研修等の記録

授業研修会 09.22
 示範授業 1・2 年年
 3・4 年年
 5・6 年年
 事後検討会

- ・「あ」の付く言葉
- ・「質問の技」カード
- ・ミニホワイトボードに聞きながら書く
- ・発散・収束・活用のプロセス
- ・ハンドクラップ 等



第7回全校授業研究 09.25
 第3学年 算数科
 「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」

計算の仕方をミニホワイトボードに書き、相手に見せながら説明したり、黒板に貼って共有したりすることで、考えの共有がスムーズにできた。



第8回全校授業研究 11.07
 あおぞら学級 自立活動
 「こんなとき、どうするの」

児童の実態に合わせて視覚的に「質問の技」を提示したり、教師がモデルを見せたりしながら進めた。教師がファシリテーターとしてのモデルを示すことで児童が自分の考えを伝えることができた。



令和6年
 第1回全校授業研究 04.30
 第3学年 国語科
 「『わたし』の説明文を書こう」

友達に聞いてもらえることで、自分の考えや思いを深めて詳しいエピソードを話すことができた。ホワイトボード・ミーティング®を活用することで、全員が迷うことなく、スムーズに書く活動ができた。



授業研修会 04.30
 示範授業 1・2 年年
 3・4 年年
 5・6 年年
 事後検討会

- ・私の構成要素
- ・インタビュー
- ・友達新聞
- ・大型ホワイトボードでホワイトボード・ミーティング® 等



第2回全校授業研究 05.29
 第5学年 道徳科
 「お母さんへの手紙」

役割演技をする際の台本をペアで作る活動を通して、話の場面についてより多角的に捉えて考えることができた。
 役割演技に小道具や台詞の吹き出しを使ったことで、臨場感を高めることができた。



第3回全校授業研究 06.10
 第6学年 国語科
 「いざという時のために」

ホワイトボードを活用し、グループごとに考えを交流する場を設定したことで、自分の考えを言語化して発散することができた。



授業研修会 06.10
 示範授業 1・2 年年
 3・4 年年
 5・6 年年
 事後検討会

- ・友達新聞
- ・「質問の技」の練習
- ・聞きながら書く練習
- ・インタビュー
- ・振り返りジャーナル 等



令和6年度 全校研究授業・授業研修等の記録

第4回 全校授業研究 07.05 第1学年 国語科 「おおきなかぶ」

役割演技を行うことで、低学年でも、登場人物の気持ちや場面の様子について想像することができ、それを音読にも生かすことができた。



第5回 全校授業研究 09.09 第2学年 生活科 「うごくうごくわたしの おもちゃ」

ホワイトボード・ミーティング®を活用することで、全員が平等に発言することができ、考えを広げることができた。また、「もっとこうしたい」という意欲も高まった。



第6回 全校授業研究 10.25 あおぞら学級 自立活動 「チャレンジタイム」

児童がファシリテーターとなり、発表会を進めることができた。話すことが苦手であっても、支援があれば自分なりに進めることができた。



第7回 全校授業研究 11.25 ひまわり学級 生活単元学習 「サントバザーでクリスマス！」

自分の得意なことを友達から話して教えてもらう活動を通して、自分の得意を自覚することができた。聞きながらホワイトボードに書く活動にも慣れてきた。



授業研修会 11.25 示範授業 3・4年生

事後検討会

・道徳「社会のやくそく 日曜日のバーベキュー」を「なってみる学び」で役割演技を行った。役割演技を通して、登場人物の心情に迫ることができた。



11.25 全校ホワイトボード・ ミーティング®

この2年間の集大成。全校ホワイトボード・ミーティング®「閉校までにみんなでやりたいこと」について、縦割り12グループで話し合った。どのグループ、どの学年の子供からもたくさんのわくわくのアイデアが出され、話し合ったことをステージでプレゼンテーションした。高学年が下学年をリードしながらも、みんなが立派なファシリテーターとして話し合いを行うことができた。



令和6年度 全校研究授業・授業研修等の記録

12.20 閉校記念プロジェクト 第1弾「全校映画鑑賞会」

全校ホワイトボード・ミーティング®で出されたアイデアの中から、全校映画鑑賞会を実施した。プロジェクトは、1年生から6年生までが楽しめる映画は何かを考え、アンケートを実施するところからスタートし、映画「ドラえもん のび太と空の理想郷」に決まった。当日は6年生が家庭科でポップコーンを作り、一つ一つ手書きのイラストの入った紙袋に入れて準備をしてくれた。1年生から5年生は、体育館に入ると、6年生からポップコーンと麦茶を受け取り、椅子席かマット席かを選んで座った。自分たちで話し合ったことが実現し、子供たちは大満足だった。



01.16～01.27 閉校記念プロジェクト 第2弾 「川渡小学校への感謝を伝えよう」

全校ホワイトボード・ミーティング®では、校舎の壁に、学校への感謝のメッセージを書きたいというアイデアも出された。壁に直接メッセージを書くことは叶わなかったが、美術作家の土屋聡先生をお呼びし、感謝の気持ちを込めたメッセージ制作をすることができた。障子紙いっぱい思い思いのメッセージを書き、閉校後の校舎の窓に掲示する予定である。子供たちに思いがまた形となった。



VOICES

OF OUR STUDENT

ホワイトボード・ミーティング®などで、友達と話し合ったり、協力したりしながら学んでみての感想。子供たちが教えてくれたこと！その一部を紹介。

まい日どんどんできるようになってきてすごいとおもった。だんだんたのしくなってきたておもしろいからだいすきになった。

 1年生 #成長実感 #だんだん

ホワイトボード・ミーティング®をしてみて、たくさんはなせるようになった。そして、みんなでやるのがすきになってきた。だから、うまくなってよかったとおもった。

 1年生 #たくさん話せる

あいづちはおぼえたり、言うのが大へんだけど言うてくれるとうれしくなるのであいづちをしました。あいづちはすごいなあと思いました。

 2年生 #あいづちってすごい

さいしょは友達と話し合うのがむずかしかったのでできてうれしかったです。

 2年生 #できるとうれしい

みんなときょうりよくしながらはなしあえてたのしかったです。いろんなことをホワイトボードでみんなとべんきょうができてよかったです。

 2年生 #みんなでやるって楽しい

いろいろ自信をもてて書いたりできるようになった。まちがえてもまたチャレンジできるようになった。

 3年生 #自信 #チャレンジ

みんなの意見を聞いて「あ！そういう考えもあるんだ」とか「それもいいなあ」と自分の考えをもうちょっと工夫したりして先生に、よく考えたねと言われてうれしかったです。

 3年生 #みんなの考えを知る

なかなかみんなの前で発表をすることが苦手でしたが6年生、5年生にアドバイスをもらって4年生からは自分の考えをみんなの前で発表できるようになりました。

 4年生 #異学年での学び合い

VOICES

OF OUR STUDENT

ホワイトボード・ミーティング®などで、友達と話し合ったり、協力したりしながら学んでみての感想。子供たちが教えてくれたこと！その一部を紹介。

1人よりみんなで話し合った方が楽しいし、いろんなアイデアが出たりしてとても楽しかったです。



4年生 #学びの広がり

すぐに話したいことが頭にうかんでくわしくせつめいすることができるようになった。



4年生 #自分の考えを話す

前より自分から話せるようになりました。友達と一緒に活動して協力ができるようになりました。自分から意見を言えて、考えをまとめることができました。



5年生 #話せるようになった

ふだんの生活している中でも、あいづちや質問などが自然に言うことができるようになりました。



5年生 #汎用的な学び

みんなと話しながら、意見をまとめられるようになったり、自分の意見をまわりに流されないように言えるようになりました。



5年生 #自分の意見が言える

ファシリテーターを上手にできるようになりました。どのようにまとめたらみんなが見やすく、分かるのかを考えてファシリテーターをやれました。



6年生 #ファシリテーター

慣れていくにつれ、ファシリテーターや、サイドワーカーを上手く、そして、楽しく、できるようになりました。続けることの大事さを改めて知ることができました。



6年生 #続けることの大事さ

友達が、どう思っているかを感じとることができたり、他の学年の考えも読み取れた。

Qどうして？

A考えと、なぜそれにしたのかの気持ちで「この子は、こんなことがしたいのか〜」というのを感じて様々なことを他の学年から学べた。

Qこれを活用してどうしたい？

Aこれをどんどん活用して、これからの生活も、他人の考えを読み取りたい。



6年生 #友達のことを読み取る

VOICES

OF OUR STUDENT

ホワイトボード・ミーティング®などで、友達と話し合ったり、協力したりしながら学んでみての感想。子供たちが教えてくれたこと！その一部を紹介。

相手の意見を質問などをして引き出せるようになりました。相手が悩んでいる際に質問をすることで話しやすくなりました。班の活動のときも、少し悩んでいる子がいたのですが、質問をして、たくさん考えがでてきて良かったです。

 6年生 #相手の考えを引き出す

力がついていく感じがしました。例えば、ファシリテーターをする時に、質問の紙がなくても自然に会話ができるようになりました。また、全校ホワイトボード・ミーティング®でプレゼンテーションをした時にも、堂々と意見を発表することができました。最後に、これらのことから私は力がついていく感じがしました。

 6年生 #力がついている

相手に分かりやすく言えるようになったことです。最初は相手に分かりやすく言えなかったけど、たくさんホワイトボード・ミーティング®をして相手に分かりやすく正確に言えるようになりました。

 6年生 #分かりやすく言える

質問の仕方などが成長できた気がしました。思っていることも考えていることもすらすらまとめて言うことができました。ホワイトボード・ミーティング®の相手の人とももっと仲深まりました。

 6年生 #考えを伝えられる

他の人の意見を興味を持って聞けるようになった。

 6年生 #興味を持って聞く

みんなの前で発表できるようになった。

 4年生 #発表できた

みんなの考えを聞いて、まとめることができた。少し分からないところがあったけど、5班のみんなが手伝ってくれてうれしかった。

 5年生 #手伝ってくれてうれしかった

前は1人で考えをまとめられなかった。今は考えをまとめて話し合うことができるようになった。

 3年生 #考えをまとめる

VOICES

OF OUR TEACHER

この2年間の校内研究を通して学んだこと。
先生方の言葉で振り返るこの校内研究での学び

初めてホワイトボード・ミーティング®に取り組んだときには、「苦手だな……」と感じました。しかし、練習を重ねていくと、思っている以上に話しやすくなりました。最初は苦手だな、と思っても繰り返し続けたことで、話し合いでも自分の意見を言いやすくなった自覚も持てました。すると不思議なもので、苦手だったはずなのに「次はもっとこうしたい」「またしたい」と思えるようになりました。この感覚が、子供たちにとっての「意欲」なのだと思っていました。



#意欲 #学び方

質問の技カードやホワイトボード・ミーティング®のやり方を教えていただいで授業の引き出しが増え、自分自身楽しく授業をすることができるようになりました。

学級の話し合いでは、自己主張が強い人の意見が採用されがちですが、ホワイトボード・ミーティング®では、一人一人が平等に話すことができるので、学級経営としても有効に活用することができました。普段は中々自分から話さない子も自分の意見は話したいし、聞いてほしいと思っているのだなと思いました。



#授業の引き出し #学級経営

これまでの学習方法では、話が得意な人だけが自分の意見を話す、人前で話すのが苦手、意見を言いたくない人は黙って聞いているだけの授業になっていたが、ホワイトボードを活用した話し合い活動を通じて、子供たちが自分の意見を話すことに抵抗感が無くなったように感じました。一人一人が自分の意見を持ち、堂々と自分の言葉でしゃべることができていると思います。また、相手の意見を受け止め、肯定する姿勢ができていたため、自分の意見を話すことが苦手な児童も話しやすい場になっていると思いました。



#話しやすい場づくり

(児童の成長)

研究がスタートした当初（1年生）は、低学年の子供たちが聞いて書くななんてできるのだろうかと思っていました。しかし、2年生の9月には、グループごとに大きなホワイトボードを使って話し合うことができました。

(自分自身の成長)

「子供たちの力を信じること」研究授業をきっかけにホワイトボードや振り返りジャーナルの活用を続けたところ、子供たちはいつの間にか、話したり書いたりすることができるようになっていました。教師ができないだろうと決めつけていただけで、子供たちはあっという間に吸収してできるようになるんだな、子供たちはこんなに力があるんだな...と反省しました。



#子供たちとともに成長した2年間！

VOICES

OF OUR TEACHER

この2年間の校内研究を通して学んだこと。
先生方の言葉で振り返るこの校内研究での学び

ついつい教師が話してしまいたくなる、やってしまいたくなる場面が多々あるのですが、ちょっと我慢。教師の働き掛け一つで、子供たちの様子も変わっていきます。「自分の考えを話したい」という子供もいれば「ちょっと苦手だな」と感じる子供もいます。もちろん支援は必要ですが、いざ子供同士の話し合いが始まると、短い言葉でも相手に伝えようとする懸命な子供の姿が見られました。また、自分たちで解決に導くための方法を見付けたり、さらに良い方法を考えたりする様子が見られ、このような学びの場を作り、子供たちの考えを深めていくことが大切なのだと感じました。



#教師の働き掛け

児童の保健室来室の様子を見ると、自分の思いを言葉にして伝えることができる児童もいれば難しい児童もいます。

「頭が痛いって具体的にどんな感じ?」「もう少し詳しく教えてください」「何でもいいよ、他にある?」とオープンクエスチョンを意識した問診を行うことで、「ズキズキする」「2時間目から痛い」「昨日なかなか眠れなかった」など、児童もぽつりぽつりと今の様子を分かりやすく伝えてくれるようになりました。また、「うんうん」「そっかあ」など、あいづちをうつことによって児童の表情が柔らかくなり安心して話してくれているんだなということを感じました。



#保健室経営への活用

2年生の授業を参観したときには、低学年の子供たちがグループ内で自主的に質問したり、意見を出し合ったりしながら、楽しそうに授業に臨んでいる姿を見ることができ、随分話し合い活動になれてきたなあと感じました。

一人一人が自分の意見を一方的に言い合うのではなく、低学年ながらも相手の話に耳を傾けながら話し合えるようになったこと、友達の意見を受けてより良いアイデアを出そうと必死になっていたことなど、成長を感じました。慣れることは大事なあとつくづく思いました。

先生方の授業の進め方にも変化を感じました。子供たちとの話し合いの場を大切にした授業の組み立てを工夫されていました。



#子供たちの成長 #授業の変容



第〇学年 国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

場 所：〇年教室

授業者：教諭 〇〇 〇〇

1 単元名 「『わたし』の説明文を書こう」

2 単元の目標

- ・伝えたいことの中心を明らかにして、「『わたし』の説明文」を書くことができる。（書くこと）

3 単元の構成と時間配当（12時間扱い 本時11/12時間）

時		主な学習活動
1	導	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で身に付けたい「言葉の力」を確かめる。 ・学習の流れを確かめ、単元の学習の見通しを持つ。
2	取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」について伝えたいことを書き出す。 ・書き出した中から「分かりやすく伝えたいエピソード」を選び、3人組になってホワイトボード・ミーティング®で深める。 ※【視点2】ホワイトボード・ミーティング®を活用した、対話的・協働的な学習活動の設定 ○発散：みんなに伝えたい好きなことや得意なこと ○収束：私が大切にしていること ○活用：そんな私を一言で説明すると？
3		
4		
5		<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの中心を決め、「組立てメモのれい」を参考に、文章の組み立てを考える。 ○伝えたいことの中心→ 私は、「〇〇な人」だ。
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・組立てメモをもとに、文章の下書きを作る。 ・下書きがおおかた作れたら、「文章の見直し方」を確かめた上で文章を見直す。 	
8		
9		<ul style="list-style-type: none"> ・見直す観点を確認して文章を見直し、清書する。 ・「『わたし』の説明文」を完成させる。
10		
11	本時	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を発表し合い、感想を伝え合う。
12	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の感想を話し合う。 ・単元の学習を振り返る。

3 本時の指導

(1) 本時のねらい

「『わたし』の説明文」を発表し合い、感想を共有することができる。

(2) 指導の着眼（本時の手立て）

【視点1】**児童が主体的に取り組むための工夫**

- ・本時の学習に向かう意欲を高めるための写真による学習活動の振り返り

【視点2】**ファシリテーションを活用した対話的、協働的な学習活動の工夫**

【視点3】**自信につなげるための振り返りの工夫**

- ・付箋を活用した、互いのよさを認め合うフィードバックを行う学習活動の設定

川渡小学校で
取り組んだ

全校研究授業 指導略案例

(3) 学習過程

主な学習の流れ	予想される児童の反応	指導上の配慮事項 (※は、評価の観点)
<p>1 説明文を作成するまでの過程の学習活動を写真で振り返る。</p> <p>本時の学習に向かう意欲を高めるための写真による学習活動の振り返り 【視点1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は自分のマップを作ったんだっとな。 ・「自分は〇〇な人だ」を考えるのが難しかったけど、説明文ができてよかったな。 ・友達に聞いてもらったから色々なエピソードが書けたんだよな。 	<p>1 自信を持って発表に臨むことができるようにするために、これまでの学習活動を写真で振り返り、児童一人一人の頑張りを価値付ける。</p> <p>2 「自分のことを友達にもっとよく知ってもらったり、友達のことをもっとよく知ることができたら素敵だね」と価値のインストラクションをし、そのために発表したり、感想を伝え合ったりしていくことを確認する。また、「参観している先生方にも自分のことを知ってもらって感想をもらえるように発表しよう」と話すことで更に意欲を高められるようにする。</p>
<p>2 本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>「『わたし』の説明文」をはっ表して感そうをつたえ合おう ～おたがいのことをもっとよく知ろう～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝わるように大きな声でゆっくり発表しよう。 	<p>3 発表から感想の共有まで見通しを持って取り組めるようにするために、発表の流れを黒板に板書して可視化する。</p>
<p>3 発表の仕方、感想の書き方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなはどんな説明文を書いたんだろう。 ・先生たちも付箋を書いてくれるのか。やったあ。 ・みんなから付箋をもらえるのは嬉しいな。 ・よし、頑張ろう。 	<p>4 発表会であることを意識し、全員が発表者に注目して話を聞けるようにするために、発表者を取り囲むように机を移動する(フォーメーション)発表後すぐにフィードバックを受けることができるように、付箋を書いた人から順次発表者に付箋を渡すようにする。どんなところが良かったのか、発表者に伝わるよう、具体的に記入するように声掛けを行う。</p>
<p>4 みんなの前に出て説明文を発表し、聞き手は感想を付箋に書いて発表者に渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張したけれど、練習通りうまく発表できたぞ。 ・こんなことを書いてもらって嬉しいな。 ・また頑張ろう。 ・〇〇君ってそんなことをやったことがあるんだね。知らなかったことが知れて良かったな。 ・自分のことを知ってもらえて嬉しいな。 	<p>5 「『わたし』の説明文発表会を終えて、どうだった」という問いで、思ったことや感じたことを振り返りジャーナルに書く。書き終えた児童から教師に提出し、教師は児童の感じたことを価値付ける。</p> <p>※ 進んで「『わたし』の説明文」を発表し合い、感想を共有することができたか。 (主体的に学習に取り組む態度：行動観察、発言)</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、思ったことや感じたことを振り返りジャーナルに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・またやりたい! ・自分のことを知ってもらえて良かった! ・伝えたいことが伝わった。 ・付箋に書いてあることが嬉しかった。 ・友達のことを詳しく知ることができて良かった。 	

(4) 板書計画

○感そう

- ・すてきなどころ
- ・はじめて知ったこと
- ・びっくりしたこと
- ・はげましのメッセージ
- ・自分と同じところ
- ・「分かる分かる」というところ

④ 感そう・しつもんタイム
(つぎに発表する人)

○はっ表

① 「わたし」の説明文のはっ表

② はく手

③ 感そうをふせんに書く
(かきおわた人からわたし)

「わたし」の説明文をはっ表して感そうをつたえ合おう

～おたがいのことをもっとよく知ろう

📌 事前検討会

【事前検討会の流れ】（参考）

- 1 開会
- 2 事前検討会
 - (1) 模擬授業（15分）
 - (2) 授業について（授業者）（5分）
※単元・本時のねらい・視点について・児童の実態・指導の着眼等
 - (3) 視点に沿った手立ての検討（20分）
- 3 役割分担（授業記録, 写真）
- 4 校長先生から
- 5 閉会

📌 事後検討会

【事後検討会の流れ】（参考）

- 1 開会
- 2 事後検討会
 - (1) 視点に沿った授業者の振り返り（ホワイトボード・ミーティング®で） @15分
発散：今日の授業を振り返って（視点ごと） @10分
収束：強み3つ, 課題3つ @3分
活用：これからの授業どうしていきたい？ 5つ出してみましよう @2分
 - (2) グループでの話し合い（1グループ3～4人）
（どの視点について話し合いたいかを聞き、その場でグループを編成します）@20分
 - ・視点1グループ
 - ・視点2グループ
 - ・視点3グループ**【授業を観ての振り返り】**
発散：視点〇の手立てを振り返ると？ 1人3分×3～4人
収束：強み3つ, 課題3つ @4分
活用：これからの授業どうしていきたい？ 5つ出してみましよう @3分
 - (3) 発表：赤字の強み3つ, 課題3つ → 青字のこれからの授業どうしていきたい5つ
について @2分/1グループ
- 3 校長先生から
- 4 閉会

川渡小学校で
取り組んだ

事前検討会・事後検討会の進め方





おわりに

川渡小学校で、研究主任として、先生方や子供たちにたくさん支えていただきながら校内研究を推進できた三年間に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

この研修のまとめにも書かれている通り、3年前に川渡小学校に赴任した際と比べると、子供たちが意欲的になり、自分の考えをもって話せるようになってきていると感じます。令和6年11月に行った全校ホワイトボード・ミーティング^⑧では、全学年の縦割りグループで「閉校までにみんなでやりたいこと」について話し合いました。話し合いの進行役として5・6年生がグループ全員の意見をホワイトボードに集め、とてもも生き生きと話し合い、そしてステージで堂々とプレゼンテーションをしている姿に、とても感動しました。この感動を教職員みんなで共有できたのは、先生方や子どもたちと粘り強く一緒に歩んできたからだと思います。

また令和5年度からの二年間に、15回の授業研究と事後検討会が開催され、教員もホワイトボード・ミーティング^⑧で授業について話し合いを深めてきました。初めの頃に比べるとやり方にも慣れ、内容的にもどんどん充実が見られるようになりました。対話することの大切さ、継続することの大切さも実感しています。

子供たちの変容に確かな手ごたえを感じることができたのは、我々教員が学び合う集団になり、授業に対する姿勢をアップデートできたことが大きいと感じています。教師が変われば子供も変わる。子供が変われば教師も変わる。教師と子供が相互に良い影響を与えながら今年の研究を終えることができ、ほっとしています。

令和6年度からは「振り返りジャーナル」に全校で取り組み、子供たちの振り返りがとても充実したと思います。振り返ることが当たり前の文化になり、どの学年の振り返りを読んでいても、自分の感じたことを言語化できていて、すごいと感じます。半面、「振り返り、めんどくさい」と言っている子供もいるので、どういう振り返りをしたら本当に子供たちのためになる振り返りになるのかについても今後考えていきたいです。

川渡小学校は今年で閉校します。最後の年に子供たちや教員の成長を実感し、「私たちには力がある」と改めて思うことができる川渡小学校最後の校内研究ができて、とても感謝しています。この研究のまとめを記録として残すことで、川渡小学校の歴史と歩みが、子供たちと教員のこれからの生かされることを願っています。

研究主任 早坂 英里子

川渡小学校の児童のみなさん、先生方に心から感謝申し上げます。令和5年度より二年間、6回、学校を訪問し、研究授業と事後検討会の伴走をさせていただきました。学習指導要領が示す「主体的・対話的な深い学び」「個別最適と協働的な学び」を具現化するために、ICTをはじめとする様々な手立てが必要となります。特に「令和の日本型学校教育」では、教員に求められる資質として「ファシリテーター」が明記されました。これまでの先生が説明をし、児童が黒板をノートに書き写すだけのスタイルから、児童が積極的、能動的に問いをもって話し合う学習スタイルへの転換が求められています。

川渡小学校では、この二年間「自ら学ぼうとする意欲を持ち、粘り強く課題に取り組み、自信を持って表現する児童の育成」を校内研究の目標として、その視点の1つに「ファシリテーションを活用した対話的、協働的な学習活動の工夫」に取り組んでこられました。

ファシリテーションという言葉は知っていても、具体的にどのようにすれば良いのかが、分からない中、先生方も児童のみなさんも楽しみながら、時には悩みながら、その練習をまさに粘り強く続けてこられました。その成果が、授業や学習活動の様々な場面に活かされる様子をたくさん、参観させていただきました。

ファシリテーションは技術なので、先生方や子どもたちの体の中に残っていきます。これから先、未来に向けて、児童のみなさんが話し合いが必要な場面になった時に、川渡小学校の子どもたちは、みんながファシリテーターになって話し合うことができます。大人になっても、役に立つ技術です。

子どもたち先生方の姿から、私自身もたくさんのことを学ばせていただきました。新しい学校でも、きっとみんなで意見を出し合いながら、進んでいくことができると思います。これからも応援しています。

研究協力者 ちょんせいこ



令和5年～令和6年度 校内研究のまとめ